

句集 ひとり旅

永島のりお 著

島根は松江市に生まれ住み、海近くに暮らしてきた著者。本書には生活の場としての風土が生き生きと詠まれている。自らの足で歩き、対象との出会いを季語によって深めてきた354句を収める。伸びやかな句の中に、ふと淋しさが垣間見え、読ませる一冊。



四六判 上製 200頁 定価: 2640円(税込10%)

〈作品抄〉

ひとり旅春爛漫の皿うどん
 いづくにか富あるごとし開花待つ
 すかんぼや一人が親の長靴で
 夏のイベントに上顎の皮が剥け
 草むしり海みえてきて流人めく
 朝顔のたねも遺品と言ふべきや
 さびしさは萩の周りを刈りてより
 テレビ消し夜寒の壁となりけり
 望郷やマスクの触るる耳の傷
 あたたかや旅の荷物が先に着き

著者紹介◆永島のりお (ながしま のりお)

1950年、島根県松江市(旧八束郡)生まれ。教員等で約50年間、教育に携わる。現在、「白魚火」「街」同人、「椋」誌上会員。俳人協会会員。

ご注文はJRCへ FAX: 03-3294-2177

●JRCより全ての取次への出荷が可能です。●返品は長期にお受けします。(了解者: JRC 宮尾)

ご注文申込書	貴店名・帳合	注文日	発行 朔出版 電話 03-5926-4386
		注文数	句集 ひとり旅 永島のりお 著
		冊	四六判 / 上製 / 200頁 / 定価: 2640円(本体2400円+税10%)
	(ご担当者名:)		ISBN978-4-911090-25-1 C0092